## 森の四季 Vol.128



## ベニマシコ (学名: Uragus sibiricus)

(写真·文 太田祥作)

「スズメ目アトリ科〕





▲雄/薄紅色を呈する。大雨覆・中雨覆の白い翼 ▲雌/雄より地味。タデ科の種子を採食していた 帯も特徴

ベニマシコは、雄の薄紅色の羽が美しいスズメ大の小鳥です。只見町には晩秋頃から飛来し、林縁や 河川敷の藪などで見ることができます。「フィ、ホ、フィ、ホ」と特徴的な地鳴きからその存在に気付くこと が多いのですが、開けた場所にはあまり出てこないため、意識して探さなければ目にする機会は少ない かもしれません。群れで生活するため、1羽見つければたいてい周囲に複数羽が潜んでいます。

種名の「マシコ」はサルの古名で、漢字では「猿子」と表記されます。雄の羽色をサルの赤い顔になぞら えて、あるいは顔がサルに似ているとして「マシコ」と呼称されるようになったと考えられています。

本種に似た種にオオマシコがいます。ベニマシコを一回り大きく、紅色をより一層鮮やかにしたような 種で、ベニマシコの特徴である尾羽外縁の白色や、翼帯の白色が目立たない点、嘴が大きい点などで識 別されます。オオマシコは寒冷地性のやや珍しい冬鳥で、裏磐梯等では記録があるものの、只見町では 未記録種です。今後の発見が期待されます。

本州以南では一般に冬鳥とされるベニマシコですが、只見町では他の多くの鳥と同様、厳冬期には姿 を消してしまうと言われています。写真右の雌は撮影時、林縁の下草に降りてタデ科の種子を採食して いました。このように、地上のタデ科やイネ科の草本の種子や芽を餌としているため、積雪により草本が 覆われてしまうと、餌を求めて雪の少ない地域へ移動していくと考えられます。

## 只見町ブナセンターからのお知らせ

只見町ブナセンター付属施設「ただみ・ブナと川のミュージアム」では、今月19日(土)よ り企画展アーカイブ「只見の天然資源とその利用」を開催します。お誘い合わせのうえ、ぜひ お越しください。

企画展アーカイブ「只見の天然資源とその利用」

会期:2020年12月19日(土)~2021年3月29日(月) 場所:ただみ・ブナと川のミュージアム 2階ギャラリー

<sup>■</sup> 発行/只見町 〒968-0421 福島県南会津郡只見町大字只見字町下2591-30